

担当教員授業題目	臨湖実習（信州大学）			担当教員	宮原 裕一
英文授業名	Practical Training in Limnology			副担当教員	
単位数	1	講義期間	前期(集中)	曜日・時限	
授業形態	実習	備考			
<p>(1) 授業のねらい</p> <p>湖は閉鎖的で、他の生態系と区別しやすい。また、湖沼生態系の主要な構成員であるプランクトンは、定量的に採集しやすく、それゆえ群集構造を解析しやすいという利点がある。そのため、湖沼は、非生物的な環境要因と生物群集との相互関係を解析するのが比較的容易で、人間活動と生態系との関わりを理解するには理想的な場所である。</p> <p>本実習では、湖の生物の採集と観察の方法を学び、湖沼生態系の構造と機能、及びそれと人間活動との関わりについて体験的に理解してもらう。</p>				<p>2日目：諏訪湖での調査 環境要因の観測、生物試料の採取 諏訪湖沿岸域の観察と生物試料の採取 湖水の分析と顕微鏡観察</p> <p>3日目：白駒池もしくは木崎湖での調査 環境要因の観測、生物試料の採取 湖水の分析と顕微鏡観察 データの取りまとめとレポート作成</p> <p>4日目 実習室の片づけ データ解析結果発表会 レポート提出・解散</p>	
<p>(2) 授業の概要</p> <p>諏訪湖畔にある山地水環境教育研究センターに泊まり込み、4日間で下記の内容の実習を行う。</p> <p>諏訪湖(標高 759m)調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 湖沼観測法の実習、及び水質(栄養塩等)の分析 動物プランクトン・底生動物の採集と分類・計数 水草の採集と生物量の測定 <p>白駒池(標高 2115m)もしくは木崎湖(標高 764m)調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境要因の測定/プランクトン採集・観察 <p>講義：集水域からの栄養塩負荷と湖沼環境</p>				<p>(4) 成績評価の方法</p> <p>出席と実習最終日に行う結果発表会、及び提出されたレポートに基づき評価する。レポートは、実習で身に付けた観察や分析方法を駆使し、実習期間中に各自が行う観察結果をまとめる。テーマは実習中に決める。</p>	
<p>(3) 授業計画</p> <p>1日目：オリエンテーション 講義「集水域からの栄養塩負荷と湖沼環境」 観測機器の取り扱い説明</p>				<p>(5) 履修上の注意</p> <p>実習は8月中・下旬の開催を計画しているが、具体的な日程は改めて掲示する。実習では山地水環境教育研究センターでの宿泊代および食費が必要となる。</p>	
<p>(6) 質問、相談への対応</p> <p>随時 宮原の連絡先：miyabar@shinshu-u.ac.jp</p>					
<p>【教科書】 特に指定しない</p> <p>【参考書】 新編 湖沼調査法 西條八東・三田村緒佐武／著 講談社サイエンティフィック</p>					